

科目名	心理学統計法Ⅰ			担当教員	蔵富 恵	
単位	2単位	講義区分			ナンバリング	ED1SPS104
期待される学修成果	教科教育 学校と社会					
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	本授業は、心理学における統計の必要性を理解し、心理学研究で用いられる代表的な分析手法についての基本原理を習得することを目標とする。					
授業の概要	心理学研究を理解し、卒業論文を書く上で欠かすことのできない統計学の基礎について学ぶ。心理学ではデータの収集が欠かせないことを理解し、集めたデータの処理の仕方について、Excelや統計ソフトJASPを使った演習を交えて習得する。					

授業計画	
第1回	オリエンテーション／心理学と数字
第2回	因果関係と相関関係
第3回	心理学研究法・データの構造と分類
第4回	記述統計（1）：代表値
第5回	記述統計（2）：散布度
第6回	統計的仮説検定のロジック
第7回	統計ソフトの使い方
第8回	質的データと質的データの関係性（1）：カイニ乗検定（2×2）
第9回	質的データと質的データの関係性（2）：カイニ乗検定（i×j）
第10回	質的データと量的データの関係性（1）：Welchのt検定（対応なし）
第11回	質的データと量的データの関係性（2）：t検定（対応あり）
第12回	質的データと量的データの関係性（3）：一元配置分散分析（実験参加者間計画）
第13回	質的データと量的データの関係性（4）：一元配置分散分析（実験参加者内計画）
第14回	量的データと量的データの関係性：無相関検定
第15回	まとめ

事前学修	2時間	質問などは各授業終了後に受け付け、翌週にフィードバックを行う。また、メールでの質疑も随時受け付け、応答する機会を設ける。
事後学修	2時間	演習で学んだ分析方法について、次週までにマニュアルを見ずに実施できる程度まで復習しておくこと。
フィードバックの方法	試験実施後に模範解答について解説する機会を設ける。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	80%	心理統計に関する基本概念および分析方法の理解を問う問題を課す。
上記以外の試験・平常点評価	20%	授業中に課す課題への取り組みで評価する。
補足事項		

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし	なし	なし	なし	なし
参考資料	必要に応じて適宜紹介する。			

科目名	心理学統計法Ⅱ			担当教員	蔵富 恵	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED2SPS505	
期待される学修成果	基礎教養 学校と社会					
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	心理学研究で用いられている記述統計、推測統計の基礎となる考え方および分析方法を習得する。以下の2点を到達目標とする。 ①心理学領域の論文で記されている基本的な統計分析の結果を理解でき、批判的な観点から検討できるようになること。 ②代表的な統計的検定の方法について習熟することで、学習した分析方法を実際のデータ分析に適用できるようになること。					
授業の概要	本講では心理学統計法Ⅰの基礎知識を前提に、卒業研究や教育現場で活用する可能性の高い多変量解析手法について学ぶ。具体的には、度数に関する検定、平均値の差の検定、変数間の関連についての検定などの分析方法を身につけることを目標とする。分析方法への理解を深めるため、学術論文の講読も行う。					

授業計画	
第1回	心理学統計法Ⅰの復習：基礎知識の確認と振り返り
第2回	心理学統計法Ⅰの復習：カイ二乗検定，t検定，一元配置分散分析
第3回	これまでの授業内容の総括と学修到達度の確認
第4回	多変量解析「分散分析」(1)：分散分析の原理
第5回	多変量解析「分散分析」(2)：2要因分散分析（実験参加者間計画）
第6回	多変量解析「分散分析」(3)：2要因分散分析（実験参加者内計画・混合計画）
第7回	多変量解析「回帰分析」(1)：相関関係と因果関係
第8回	多変量解析「回帰分析」(2)：単回帰分析
第9回	多変量解析「回帰分析」(3)：重回帰分析
第10回	多変量解析「因子分析」(1)：信頼性と妥当性
第11回	多変量解析「因子分析」(2)：内的整合性
第12回	多変量解析「因子分析」(3)：因子分析の考え方
第13回	多変量解析「因子分析」(4)：因子分析の実施1
第14回	多変量解析「因子分析」(5)：因子分析の実施2
第15回	まとめ

事前学修	2時間	授業前に配布資料を精読し、疑問点を明らかにしておくこと。
事後学修	2時間	演習で学んだ分析方法について、次週までにマニュアルを見ずに実施できる程度まで復習しておくこと。
フィードバックの方法	演習時の質疑に対しては即時回答を行う。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	80%	心理統計に関する基本概念および分析方法の理解を問う問題を課す
上記以外の試験・平常点評価	20%	確認テストを含め、授業中に課す課題への取り組みで評価する。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし	なし	なし	なし	なし
参考資料				